

修学旅行 俳句に触れて

松山大学生が コース企画 愛知の高校生が体験

愛知県東海市の県立東海商業高校の生徒が10日、修学旅行の誘致を進める松山市を訪れ、大学生のガイドを聴きながらまち歩きを通じた俳句づくりなどを体験した。

市と連携協定を結ぶ松山大で地域活性化などを学ぶ学生ら約30人が、5月ごろから準備した。まち歩きを取り入れた俳句づくりや大

学でのまちづくり特別講座に加え、たい飯、じゃこカツなどの名物を取り入れた弁当アイデアなど、新しい旅行プラン「大学生と行く松山はいくコース」を市を通じ旅行会社に提案、採用された。実際に修学旅行生を迎えたのは初めて。

訪れた東海商高2年生約230人のうち約80人がコースを選択。同市道後喜多町の「俳句の道」と明治時代から続く造り酒屋を巡る班では、大学生ガイドが正岡子規、種田山頭火の句碑の解説や句作のアドバイスをした。

松山大3回生の水口拓哉さん(21)は「準備を進める中で自分も松山のことを学べた。知っていることでも説明するのは難しい」と話し、東海商高の林美穂



大学生(右の2人)の案内で「俳句の道」を歩き、句碑の説明を受ける修学旅行生ら

さん(17)は「松山の方言も教えてもらった。年が近くて話しかけやすく、機会があったらまた案内してほしい」と感想を述べた。一行は同市道後公園の市立子規記念博物館で、俳人夏井いつきさんの指導を受けながら俳句の感想を述べ合う「句会ライブ」もした。(清家香奈恵)